

事例  
研究高齡者の活躍が  
企業の未来を切り拓く

少子高齢化に伴う労働力人口の減少は、企業の人材不足を招く大きな問題となっています。本紙では、高齢者の積極的な採用により、問題解決に向けて取り組まれている企業をご紹介します。本事例を足掛かりとして、高齢者を活用した人材確保にお役立てください。

自分の力で生きる。「授産」の思想で創業  
株式会社 光生舎「とにかく動いていたい！」  
元気な80歳の清掃員

株式会社光生舎の設立は1959年。クリーニングを中心に、リネンサプライ、リースキンなど「クリーン・快適・思いやり」を理念に多様な事業を展開している。今回訪ねたのは西区発寒にあるハウスケア事業の事務所だ。

話を伺ったのは昨年2月に入社された今泉善勝さん。今泉さんはこの1月、80歳になられた。毎週火、木、土の3日、7:30~15:30の内7時間、札幌市内の慈啓会特別養護老人ホームで清掃業務を担当している。80歳になっても元気に働いている理由を伺うと「とにかく動いていたいんです」とおっしゃる。慈啓会特別養護老人ホームは4階建て。午前と午後、ごみの回収をしている。「7時間で2回、4階建ての広い建物内のごみを回収するのは時間との闘いなんです」と今泉さん。マンネリ化しないようにいろいろ工夫しながら、作業時間を短縮しているのだとか。

今泉さんを面接し、採用を決めた同社リースキン課の中村典也課長と山田正浩主任は言う。「当時、今泉さんは79歳。

体力的に大丈夫か心配だったんですが、『大丈夫です！ぜひ働かせてください！』と今泉さんが、すごく熱心に語ってくれたので、その熱意を買って採用したんです」。

「最初は腰が痛くなってきつかったんですが、1カ月勤めたら身体が慣れました。働いて健康になったと思います」と今泉さん。「今泉さんは今まで一度も休んだことがないし、他の人の都合が悪くなったときには、その人の仕事を引き受けてくれるので、とても助かります」と山田さん。

このお正月も2日と3日は今泉さんが出勤し、ごみの回収をしたのだとか。

高齢者も障がい者も  
いきいきと働くことができる職場

株式会社光生舎は、創業者の高江常男氏が「授産」の理念を掲げ、1956年、赤平にドライクリーニング工場を開設したところから始まる。授産とは、「失業者に仕事を授けて生活できるようにする」という意味である。

当時の赤平は炭鉱の町。炭鉱で怪我を負って働けない障



写真左) 西区発寒にある同社リースキン課の事務所がある建物外観。

写真中) 写真右) 職場の慈啓会特別養護老人ホームでゴミ回収作業をする今泉さん。「ゴミを回収することで、ここで働く人たちが気持ちよく働ければ嬉しい」とおっしゃる。

会社概要 【名称】株式会社 光生舎  
【本社所在地】札幌市東区北39条東15丁目1番19号  
【設立】昭和41年

【代表者】代表取締役社長 高江 智和理  
【従業員】500名  
【資本金】9,450万円

【売上高】40億円  
【事業内容】一般クリーニング、ホテル・レストランリネンサプライ、ケミカル製品レンタル、その他商品販売

がい者が多くいた。仕事を失い、生きる気力を失っている障がい者をなんとかしたいと考えた高江常男氏が、障がい者十数名を集めて始めたのが赤平ドライクリーニング工場。高江常男氏はその当時、空知タイムスの赤平支局で新聞記者をしていた。実は彼自身、右目が義眼で、両腕を失った障がい者だった。眼は子どものころ竹とんぼが刺さって失い、両腕は19歳の時、電柱に上って電線を張る架線作業をしていた際に感電して失った。同氏と同じ障がいを負った人たちを「授産」の思想をもって、自力でいきいきと暮らせる仕組みを作ったのだ。

高江常男氏が設立したドライクリーニング工場に、仕事を提供する組織として設立されたのが株式会社光生舎だ。

元気な今泉さんの趣味は冬は卓球、夏はパークゴルフ。パークゴルフのベストスコアは21。PAR33のパークゴルフで21とは！今泉さんは貰った給料から奥さんにお小遣いを渡しているという。ふたりで買い物に行ったり、美味しい料理を食べたりして楽しい時間を過ごしている。

障がい者も高齢者も、楽しく、いきいきと働いている株式会社光生舎を今後も注視してゆきたい。



今泉善勝さん(80歳)

「人生100年時代。働くことは健康に良し、ボケ防止に良し。あと10年くらいは働きたいですね」とおっしゃる。



法人営業部 リースキン課ハウスクエア 課長・中村典也さん(左)と、法人営業部 リースキン課管理サポート主任・山田正浩さん(右)  
「今泉さんの『働きたい!』という熱量はすごい。安心して仕事を任せることができます」

## 社労士からひとこと!



社会保険労務士・  
キャリアコンサルタント  
産業カウンセラー

小嶋 亜希子 さん

## 「授産」という言葉をご存じでしょうか？

「授産」という言葉を聞いたことはありませんでしたが、今回、実際にその考え方を実現している企業を初めて拝見しました。

障がい者・高齢者など、働きたいけれども働く機会が見つからないという方々は世の中に多いと思います。そういった方々に働くチャンスをあけて、本人たちが自らの力で生活できるようにする、「授産」の仕組みを見事

に実現なさっていると思います。特に80歳の今泉さんが「ほかの人が都合が悪くなった日も働いてくれる。」というお話には驚かされました。授産の概念には、その概念に確実に応える「責任感」もついてくると思います。

年寄りだから休んでも・・・ではなく、他の方のピンチヒッターをこなされるなんて本当に素晴らしいと感じました。

## 高齢者雇用の求人募集は【就サポ】へ!

お申し込み・お問い合わせ

札幌で就活なら  
**就サポ** 札幌市就業  
サポートセンター

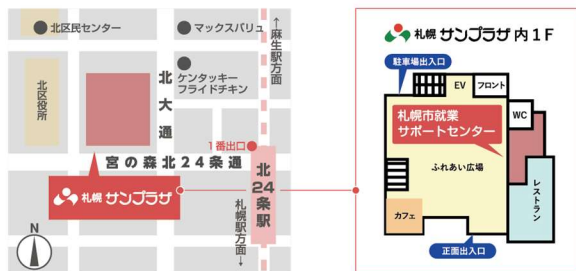
求人開拓室

☎ 011-708-7865

☎ 011-716-6811

《受付時間》平日8:45~17:00(土・日・祝日・年末年始除く)

就サポサービス情報サイト <http://saposen.co.jp/>



札幌市北区北24条西5丁目 札幌サンプラザ1階 地下鉄南北線「北24条駅」1番出口より徒歩3分

札幌市就業サポートセンターでは、札幌市が委託する民間職業紹介事業者とハローワークが共同で無料の職業紹介サービスを行っている全国で唯一の官民共同窓口です。職業紹介やカウンセリング、セミナーなどを組み合わせた多様な就労支援サービスを提供しております。



さっぽろ市  
02-H01-22-2679  
R4-2-1669